

産 業 厚 生 常 任 委 員 会 資 料

令和2年1月9日
都 市 整 備 部
土 木 課

目 次

加東市道路整備基本計画策定の進捗状況について・・・P 1

加東市道路整備基本計画策定の進捗状況について

1 趣旨

市では、安全・安心でまちの活性化に繋がる道路整備をより効率的に進めるため、「加東市道路整備基本計画（以下「計画」という。）」の策定を進めています。

については、現時点での計画素案及び今後のスケジュールを報告いたします。

2 計画素案

別紙のとおり

3 今後のスケジュール（予定）

令和2年2月	1月9日の産業厚生常任委員会での意見等を踏まえ、修正した計画案を産業厚生常任委員会に報告
令和2年2月～3月	パブリックコメントの実施
令和2年3月	計画策定

加東市道路整備基本計画 (素案)

令和2年 月
加東市

1. 序章	1
1.1 計画の概要・位置付け	1
1.1.1 計画の概要	1
1.2 計画の位置付け	2
2. 加東市の概要	3
2.1 加東市の地域特性	3
2.1.1 加東市の位置	3
2.1.2 広域交通網	4
2.2 人口・世帯の状況	5
2.2.1 人口の推移	5
2.2.2 世帯数の推移	6
2.2.3 地域別人口	7
2.2.4 人口分布	9
2.2.5 地域間流動	12
2.2.6 利用交通手段	14
2.3 土地利用状況	15
2.3.1 土地利用状況	15
2.3.2 用途地域指定状況	16
2.4 産業活動	17
2.4.1 産業構造	17
2.4.2 従業者の分布	18
2.4.3 大規模商業施設の立地	19
2.5 施設の立地	20
2.5.1 観光施設の立地と観光客数の推移	20
2.5.2 公共公益施設の立地	24
2.6 道路・交通現況	25
2.6.1 道路網の現況	25
2.6.2 小中学校と通学路	33
2.6.3 路線バス	34
2.6.4 自動車交通量	35
2.6.5 交通事故発生状況	37
2.7 防災	39
2.7.1 緊急輸送道路ネットワーク	39
2.7.2 土砂災害危険箇所	40
2.8 上位計画	41
2.8.1 第2次加東市総合計画	41
2.8.2 加東市都市計画マスタープラン	46
3. 道路の課題	54
3.1 都市内道路の機能	54

3.2 道路の課題	55
3.2.1 安全・安心なみちづくり	55
3.2.2 まちの魅力の維持・向上とにぎわいを創出するみちづくり	59
3.2.3 地域をつなぐみちづくり	63
4. 幹線道路網の整備方針	64
4.1 整備方針	64
4.2 整備方針における市道のあり方	64
4.2.1 安全・安心なみちづくり	64
4.2.2 まちの魅力の維持・向上とにぎわいを創出するみちづくり	65
4.2.3 地域をつなぐみちづくり	65
5. 幹線道路整備の必要性検討	66
5.1 検討のフロー	66
5.2 評価① 既存路線の必要性の検討	67
5.2.1 検討対象路線・区間の整理	67
5.2.2 安全・安心なみちづくり	68
5.2.3 まちの魅力の維持・向上とにぎわいを創出するみちづくり	74
5.2.4 地域をつなぐみちづくり	78
5.2.5 その他	79
5.2.6 評価① 既存路線の評価結果	80
5.3 新規候補路線・変更候補路線の検討	84
5.3.1 検討対象路線・区間の整理	84
5.4 整備時期の検討	86
5.4.1 短期的な整備予定箇所	89
5.4.2 長期的な構想箇所	90
5.4.3 道路整備計画	91
6. 評価検証	92

1. 序章

1.1 計画の概要・位置付け

1.1.1 計画の概要

加東市は、平成 18 年 3 月 20 日に社町、滝野町、東条町が合併して誕生しました。『山よし！技よし！文化よし！夢がきらめく☆元気なまち 加東』をまちの理想像として掲げ、安全・快適でにぎわいのあるまちづくりを進めています。

しかしながら、人口減少や超高齢社会の到来に備えた都市づくりや社会資本整備の対応が全国的な課題となっており、本市においても例外ではありません。そのため、今後、安全安心でまちの活性化に繋がる道路整備を、より効率的に推進していく必要があります。

本計画は、このような課題・背景をふまえながら、本市の道路に関する課題把握および整備方針の検討を行ったうえで、短期的な道路整備のあり方を明確にするとともに、長期的な構想を示すために策定するものです。

なお、本計画の掲載内容は固定化するものではなく、社会・経済情勢の変化などにあわせ、適宜、見直しを行うものとします。

(1) 計画期間

- ・短期的な整備予定箇所：2020 年～2029 年度
- ・中長期的な構想箇所：短期的な整備予定箇所の整備後

(2) 計画対象路線

市道のうち、国・県道を補完して幹線道路に準ずる役割を果たす、「1・2級市道」を対象とします。

1.2 計画の位置付け

本計画の位置付けは、以下の通りです。

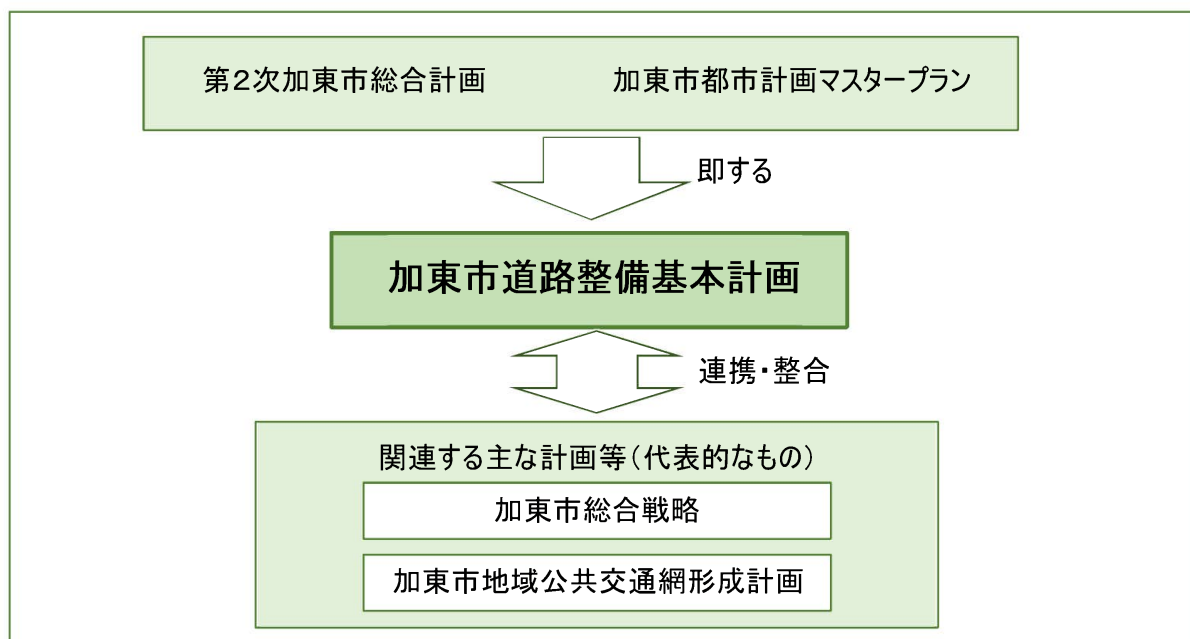


図 1-1 本計画の位置付け

2. 加東市の概要

2.1 加東市の地域特性

2.1.1 加東市の位置

本市は、兵庫県中央部やや南よりに位置し、東は篠山市、三田市、南は小野市、三木市、西は加西市、北は西脇市と接しており、総面積は 157.55 ㎡です。



図 2-1 加東市の位置

2.1.2 広域交通網

市の東西を中国縦貫自動車道が横断し、「ひょうご東条インターチェンジ」と「滝野社インターチェンジ」の2つの玄関口を有しています。加えて、幹線道路である国道175号が南北を、国道372号が東西をつなぎ、広域交通の要衝となっています。

鉄道網は、市の西部を南北にJR加古川線が通っています。



資料：加東市都市計画マスタープラン 2019年3月

図 2-2 本市周辺の交通網

2.2 人口・世帯の状況

2.2.1 人口の推移

本市の人口は平成7年以降40,000人前後で推移しています。

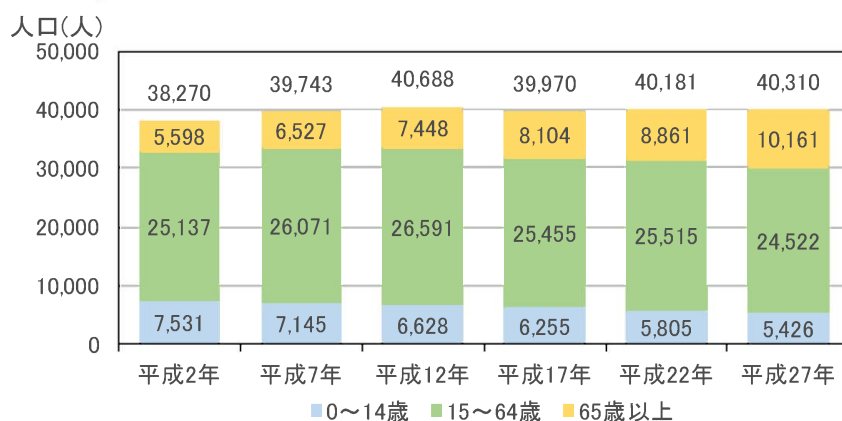
年齢別では、65歳以上の構成比が平成2年から平成27年にかけて10%近く増加しています。一方、14歳以下の構成比は平成2年から平成27年にかけて約6%減少しており、少子高齢化が進行しています。

表 2-1 区分別人口の推移と割合

	人口(人)				構成比(%)		
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
平成2年	38,270	7,531	25,137	5,598	19.7	65.7	14.6
平成7年	39,743	7,145	26,071	6,527	18.0	65.6	16.4
平成12年	40,688	6,628	26,591	7,448	16.3	65.4	18.3
平成17年	39,970	6,255	25,455	8,104	15.7	63.9	20.4
平成22年	40,181	5,805	25,515	8,861	14.4	63.5	22.1
平成27年	40,310	5,426	24,522	10,161	13.5	61.1	25.3

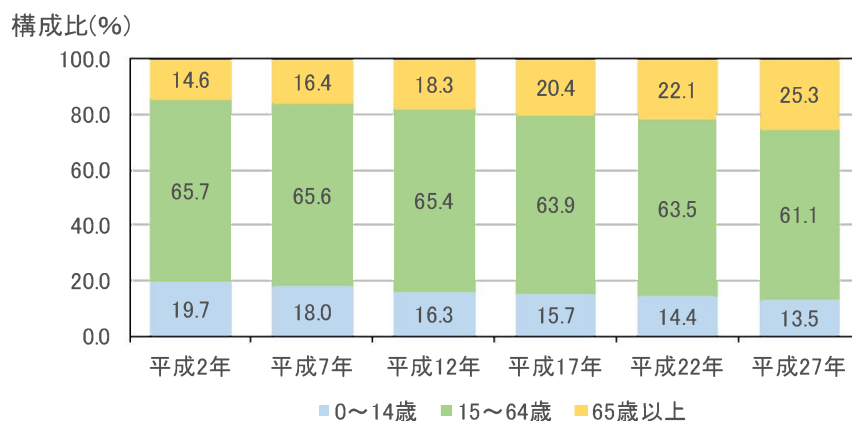
資料：国勢調査

※人口の「総数」以外において、年齢「不詳」平成2年：4人、平成12年：21人、平成17年：156人、平成27年：201人を除きます。



資料：国勢調査

図 2-3 区分別人口の推移



資料：国勢調査

図 2-4 区分別人口割合の推移

2.2.2 世帯数の推移

本市の世帯数は増加傾向にあり、平成2年から平成27年にかけて約5,000世帯増加しています。

一方、1世帯当たりの人員数は、平成2年には3.59人/世帯でしたが、平成17年に3.0人/世帯を下回り、平成27年には2.58人/世帯と、平成2年から約1人/世帯減少しています。

表 2-2 世帯数及び世帯人員

	世帯数 (世帯)	世帯人員 (人)	1世帯当たり 人員数(人/世帯)
平成2年	10,323	37,058	3.59
平成7年	11,544	38,609	3.34
平成12年	12,728	39,407	3.10
平成17年	12,992	38,613	2.97
平成22年	14,103	38,778	2.75
平成27年	15,048	38,830	2.58

資料：国勢調査



資料：国勢調査

図 2-5 世帯数及び世帯当たり人員数の推移

2.2.3 地域別人口

本市の地域別人口及び世帯数は社地域に約 5 割、滝野地域に約 3 割、東条地域に約 2 割の分布となっています。

地域別人口は社地域の人口が平成 23 年から平成 30 年にかけて微減、滝野地域及び東条地域は微増となっています。

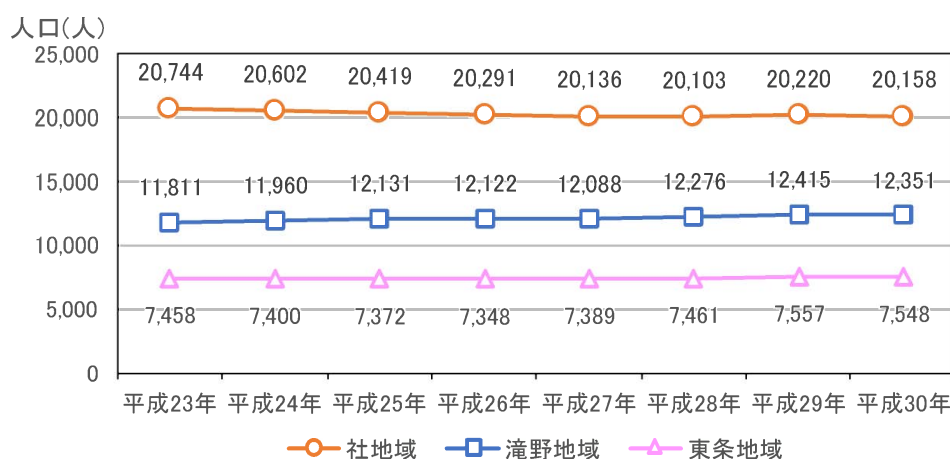
世帯数は 3 地域とも増加しています。特に滝野地域は平成 23 年から平成 30 年にかけて 2 割程度増加しています。

表 2-3 地域別人口

	社地域		滝野地域		東条地域		合計
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	
平成 23 年	20,744	51.9%	11,811	29.5%	7,458	18.6%	40,013
平成 24 年	20,602	51.6%	11,960	29.9%	7,400	18.5%	39,962
平成 25 年	20,419	51.1%	12,131	30.4%	7,372	18.5%	39,922
平成 26 年	20,291	51.0%	12,122	30.5%	7,348	18.5%	39,761
平成 27 年	20,136	50.8%	12,088	30.5%	7,389	18.7%	39,613
平成 28 年	20,103	50.5%	12,276	30.8%	7,461	18.7%	39,840
平成 29 年	20,220	50.3%	12,415	30.9%	7,557	18.8%	40,192
平成 30 年	20,158	50.4%	12,351	30.8%	7,548	18.8%	40,057

各年 3 月末時点

資料：住民基本台帳（市民課）



各年 3 月末時点

資料：住民基本台帳（市民課）

図 2-6 地域別人口の推移

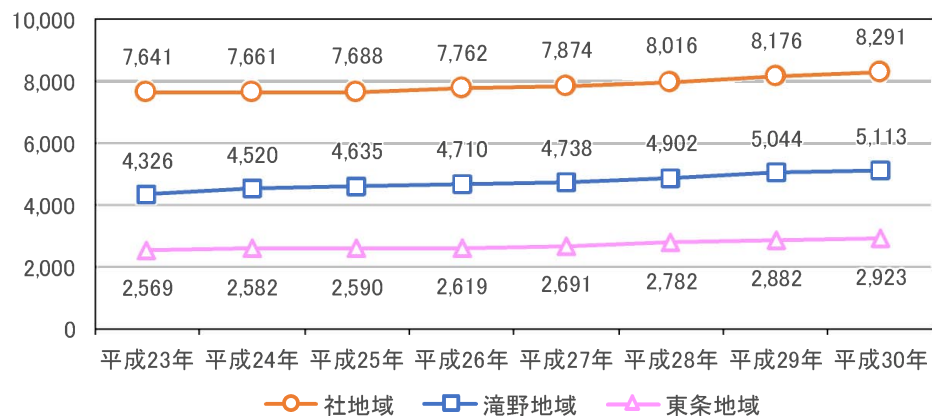
表 2-4 地域別世帯数

	社地域		滝野地域		東条地域		計
	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合	
平成 23 年	7,641	52.5%	4,326	29.8%	2,569	17.7%	14,536
平成 24 年	7,661	51.9%	4,520	30.6%	2,582	17.5%	14,763
平成 25 年	7,688	51.5%	4,635	31.1%	2,590	17.4%	14,913
平成 26 年	7,762	51.4%	4,710	31.2%	2,619	17.4%	15,091
平成 27 年	7,874	51.4%	4,738	31.0%	2,691	17.6%	15,303
平成 28 年	8,016	51.1%	4,902	31.2%	2,782	17.7%	15,700
平成 29 年	8,176	50.8%	5,044	31.3%	2,882	17.9%	16,102
平成 30 年	8,291	50.8%	5,113	31.3%	2,923	17.9%	16,327

各年 3 月末時点

資料：住民基本台帳（市民課）

世帯数(世帯)



各年 3 月末時点

資料：住民基本台帳（市民課）

図 2-7 地域別世帯数の推移

2.2.4 人口分布

(1) 人口集中地区

本市では、市北西部の滝野地域が人口集中地区（DID）として位置付けられており、DID 面積は 1.19km²で市全体の 0.8%であるのに対し、人口は 5,537 人で市全体の 13.7%を占めています。

表 2-5 人口集中地区（DID）の概要

年	面積(km ²)	人口 (人)	市全体に対する割合(%)	
			面積	人口
平成 27 年	1.19	5,537	0.8	13.7

※平成 22 年以前の加東市の人口集中地区（DID）面積は 0。

資料：国勢調査

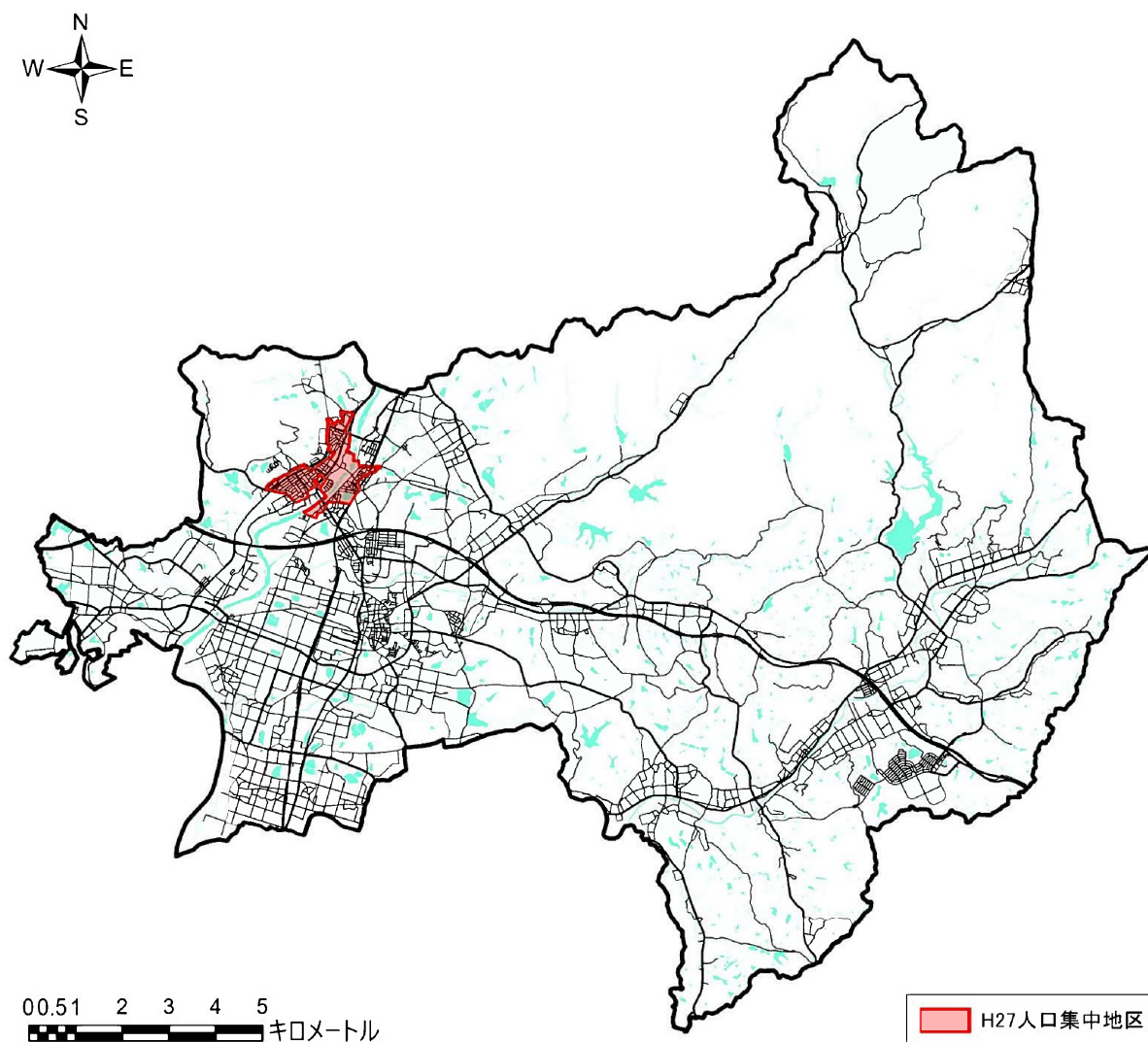
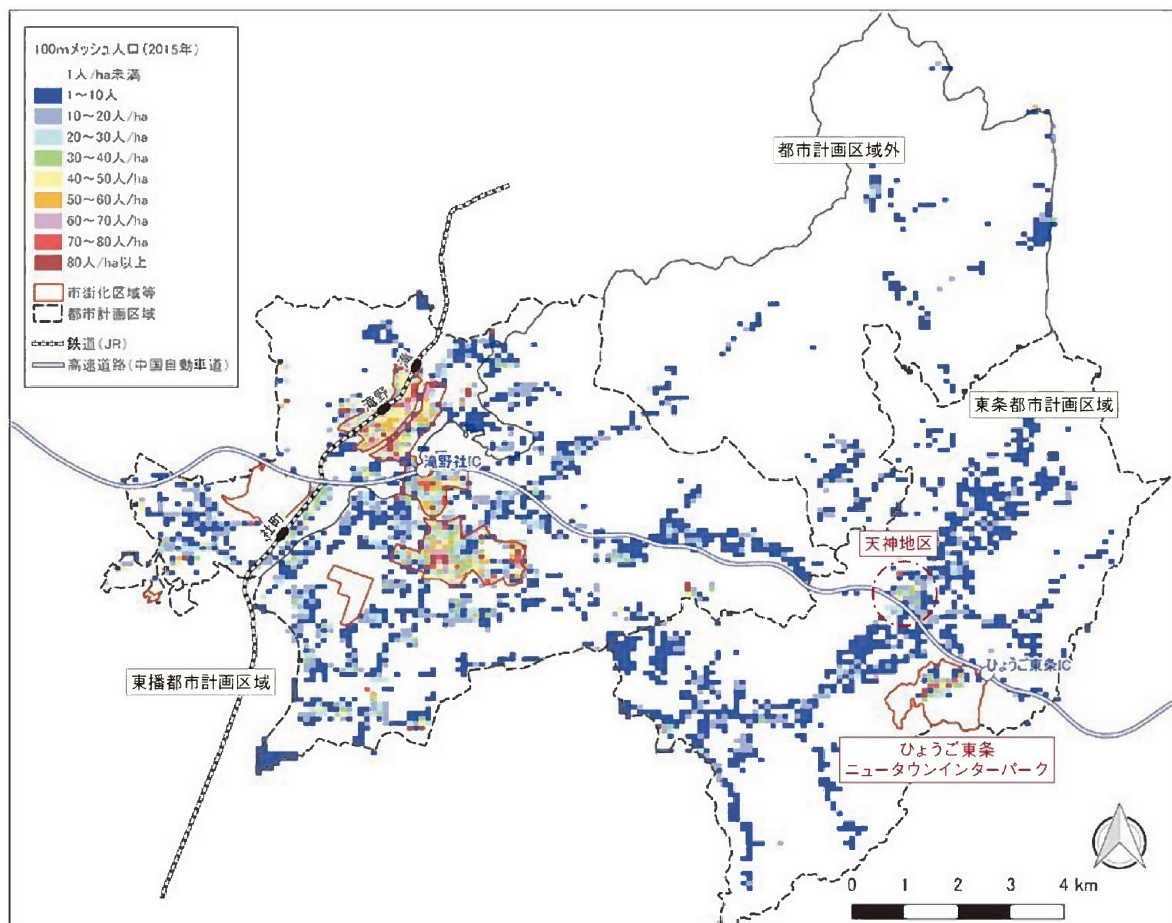


図 2-8 5 次メッシュ人口分布と DID 地区

(2) メッシュ人口

2015（平成 27）年の 100m メッシュ人口をみると、1ha 当たり 40 人以上（適正な市街地の人口密度の目安）のメッシュは、社地域では市役所周辺から滝野社 IC 付近の市街地に分布しています。また、滝野地域では JR 滝野駅周辺の市街地に、東条地域では天神地区及びひょうご東条 IC 付近の市街地に分布しています。

2040（令和 22）年の推計人口による 100m メッシュ人口をみると、人口分布は 2015（平成 27）年から大きな変化はみられないものの、一部人口が 1 人/ha 未満となる地区（図中の青○）もみられます。



※ 100m メッシュ人口は、H27 国勢調査による加東市の 500 mメッシュ人口（国勢調査）及び国政局推計の 500 mメッシュ将来（H32～H62）推計人口（国土数値情報）から以下の方法により算出。

ステップ 1：兵庫県都市計画基礎調査の土地利用情報（H26）、国土数値情報の土地利用細分メッシュ情報（H26）、国土基盤情報の建築物の情報（H28）を用いて、住宅系用地に立地する「普通建物」及び「堅牢建物」データから、「住宅用建物」を抽出。

※加東市統計 GIS システムの空家情報から「空家ポイント」と重なる建物は除外

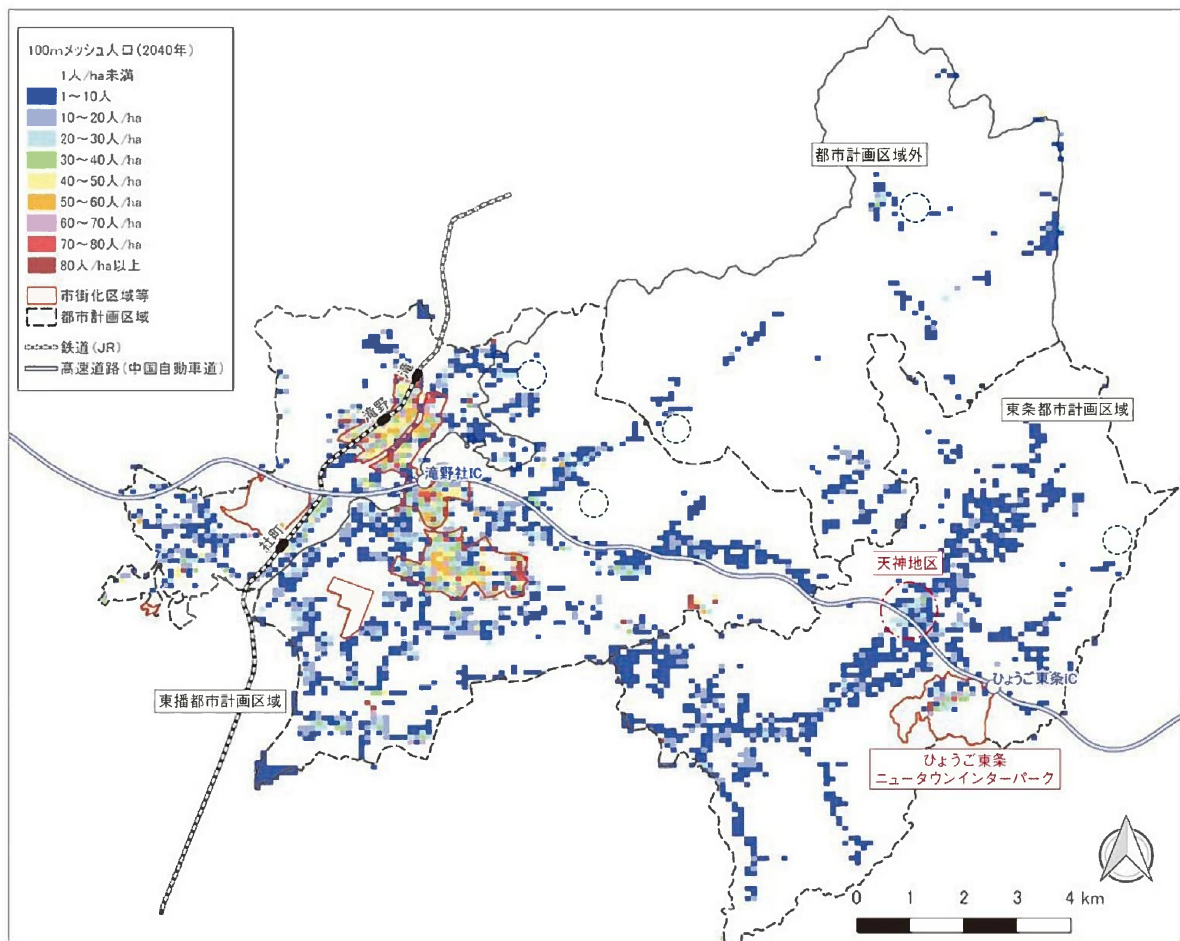
ステップ 2：100 mメッシュごとに「住宅用建物面積」を算出し、当該メッシュが位置する 500 mメッシュ内における「住宅用建物面積割合」を算出。

ステップ 3：H27 年 500 mメッシュ人口及び 500 mメッシュ将来推計人口を、住宅用建物面積割合に応じて 100 mメッシュに分配。

ステップ 4：市域全体の H27 国勢調査人口及び社人研推計人口（H32～H57）をコントロールトータルに 100 mメッシュ人口を補正し、100 mメッシュ人口（H27 現況及び将来推計）を算出。

資料：加東市都市計画マスタープラン 2019 年 3 月

図 2-9 100m メッシュ人口（2015（平成 27）年）



資料：加東市都市計画マスタープラン 2019年3月

図 2-10 100mメッシュ人口(2040(令和22)年)

(1) 市町間流動

通勤者・通学者の流入元は西脇市が約 2,800 人で最も多く、流出先は小野市が約 2,300 人で最も多くなっています。この他、加西市や三木市の流出入も多くみられます。

(單位：人、%)

年	夜間人口	流入人口	流出人口	差引増減	昼間人口	昼夜間人口比率
平成 2 年	38,266	10,660	9,128	1,532	39,798	104.0
平成 7 年	39,743	13,427	10,358	3,069	42,812	107.7
平成 12 年	40,667	14,242	11,175	3,067	43,734	107.5
平成 17 年	39,814	15,201	11,734	3,467	43,281	108.7
平成 22 年	40,181	13,209	9,012	4,197	44,378	110.4
平成 27 年	40,310	13,753	9,472	4,281	44,591	110.6

加東市に常住する就業者・通学者数:22,193 人
 加東市で従業・通学:12,378 人
 加東市で従業・通学する者:26,169 人
 他市区町村に常住:13,421 人



図 2-11 通勤者・通学者の流入元と流出先

(2) 市内流動

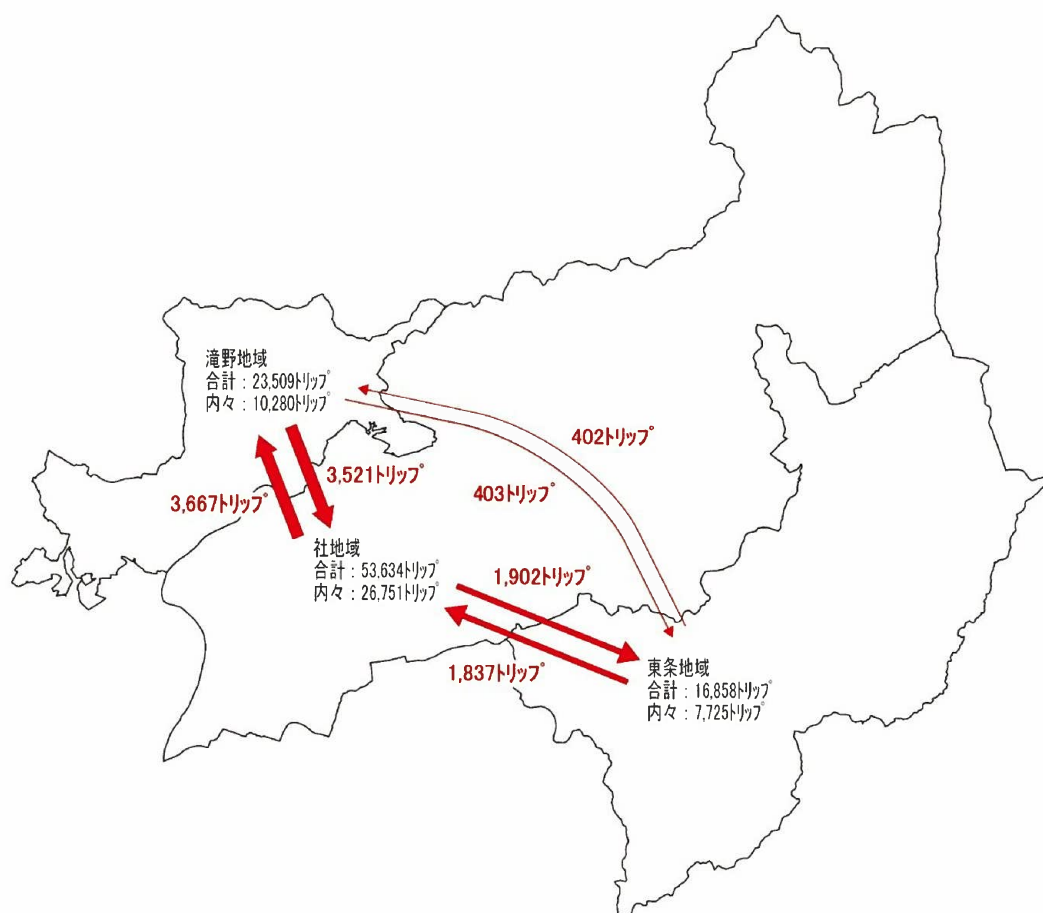
市内の地域間流動量をみると、社地域及び滝野地域間の流動量がそれぞれ約 3,600 トリップ/日、社地域と東条地域間の流動量がそれぞれ約 1,900 トリップ/日と、滝野地域と東条地域間の流動量が約 400 トリップ/日と、社地域を発着地とする流動が多くみられます。

表 2-7 地域間流動量

(単位：トリップ/日)

着 発	滝野地域	社地域	東条地域	加東市内 不明	市外	合計
滝野地域	10,280	3,521	402	233	8,985	23,421
社地域	3,667	26,751	1,902	811	20,439	53,570
東条地域	403	1,837	7,725	339	6,567	16,871
加東市内不明	245	815	352	295	3,485	5,192
市外	8,914	20,710	6,477	3,609	－	－
合計	23,509	53,634	16,858	5,287	－	－

資料：平成 22 年 第 5 回近畿圏パーソントリップ調査 京阪神都市圏交通計画協議会



資料：平成 22 年 第 5 回近畿圏パーソントリップ調査 京阪神都市圏交通計画協議会

図 2-12 地域間流動量

2.2.6 利用交通手段

本市に常住する就業者・通学者の利用交通手段分担率は「自家用車」が 77.1%と大部分を占めており、次いで「自転車」が 9.3%となっています。

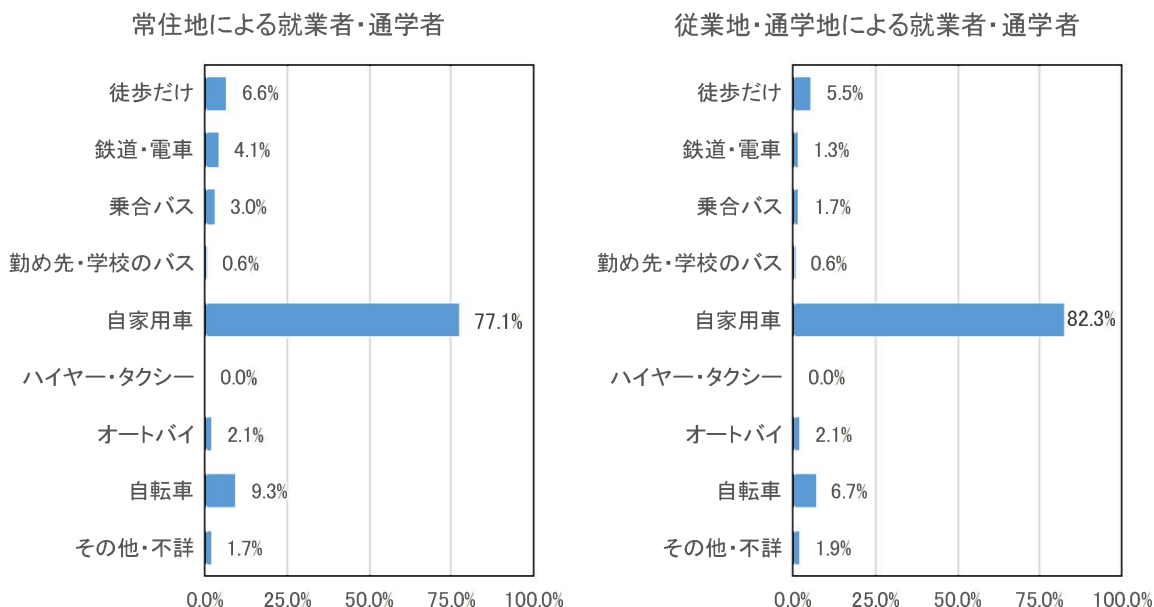
本市で従業・通学する就業者・通学者の利用交通手段分担率も「自家用車」が 82.3%と加東市に常住する就業者・通学者よりも多くなっています。

一方、鉄道・電車、乗合バス等の公共交通の利用者は、本市に常住する就業者・通学者、本市で従業・通学する就業者・通学者ともに非常に少なくなっています。

表 2-8 就業者・通学者の利用交通手段

	常住地による 就業者・通学者数	従業地・通学地による 就業者・通学者数
総数	19,763	23,651
徒歩だけ	1,305	1,299
鉄道・電車	308	308
乗合バス	596	402
勤め先・学校のバス	119	150
自家用車	15,228	19,470
ハイヤー・タクシー	2	4
オートバイ	423	495
自転車	1,838	1,595
その他・不詳	341	455

資料：平成 22 年国勢調査



資料：平成 22 年国勢調査

図 2-13 就業者・通学者の利用交通手段分担率

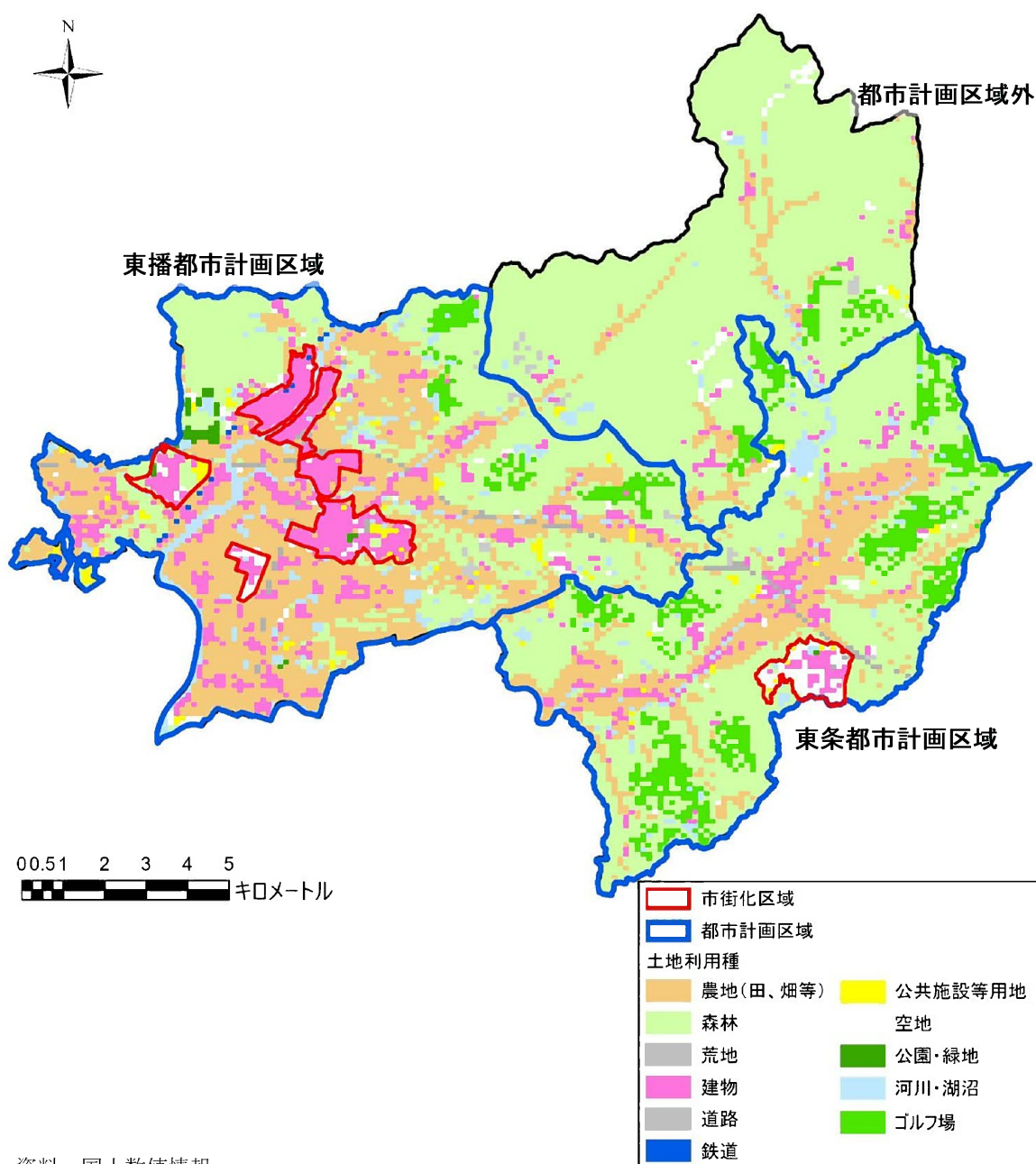
2.3 土地利用状況

2.3.1 土地利用状況

本市は市東部の東条都市計画区域、市西部の東播都市計画区域及び市北東部の都市計画区域外の3つの区域で形成されています。

東播都市計画区域では中心付近で建物利用が多くみられ、その周辺に農地が、さらにその外側に森林が広がっています。

東条都市計画区域では道路沿道に建物利用がみられ、周辺に農地、森林が広がっています。また、区域内ではゴルフ場の利用も多くみられます。



資料：国土数値情報

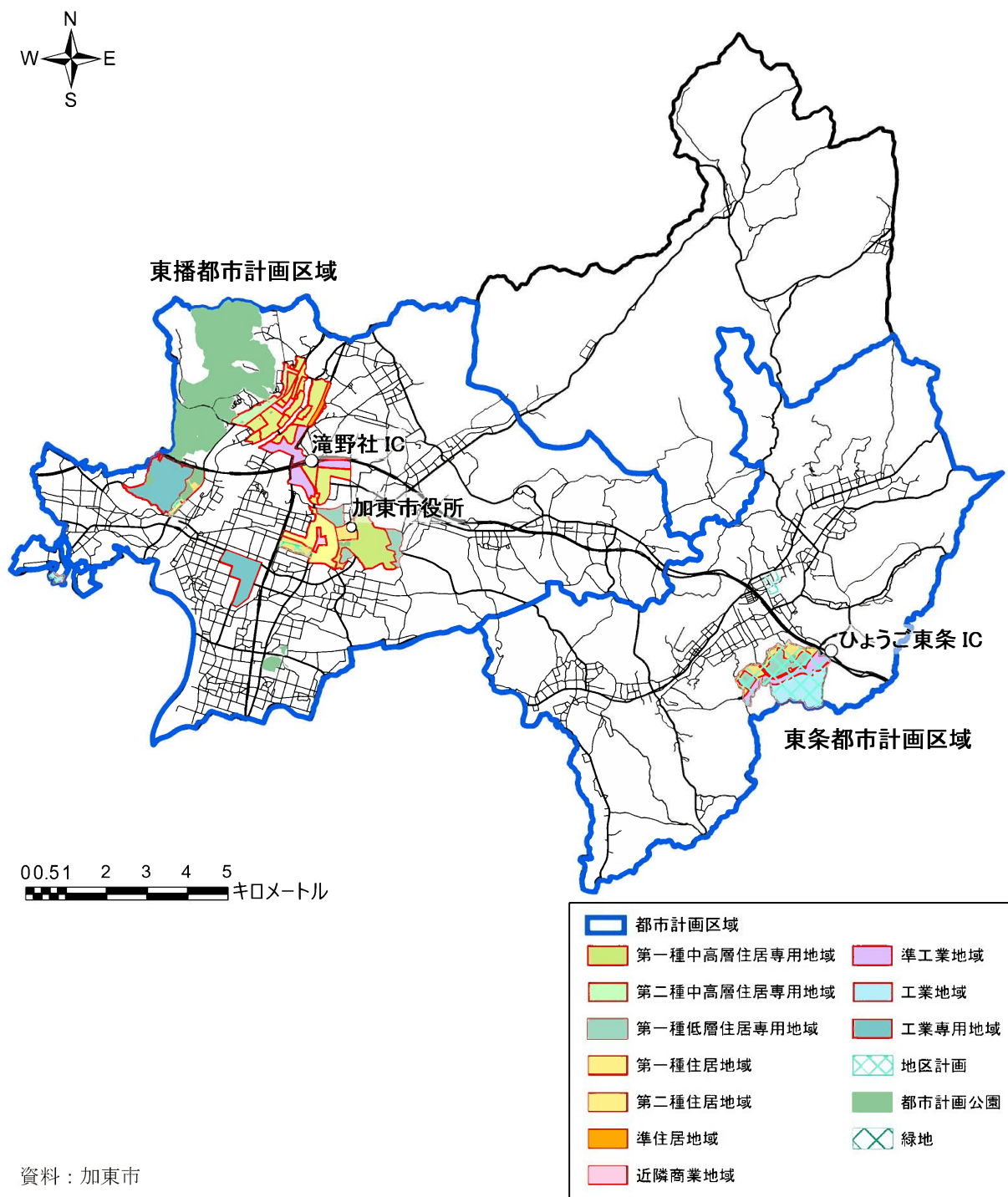
「都市地域土地利用細分メッシュデータ（平成28年度～）」より作成

図 2-14 土地利用状況

2.3.2 用途地域指定状況

市西部の東播都市計画区域では、滝野社 IC 周辺が準工業地域に、その周辺の地区が住居系の用途が指定されています。また、市役所の周辺では、一部近隣商業地域に指定されているほかは、住居系の用途が指定されています。このほか、工業専用地域や都市公園の指定もみられます。

東条都市計画区域では市境付近で準工業地域、工業地域の指定がみられます。また、その北側は第一種低層住居専用地域、第二種住居地域に指定されています。



資料：加東市

図 2-15 用途地域指定状況

2.4 産業活動

2.4.1 産業構造

本市の産業別の就業者数は、第1次産業が約5%、第2次産業が約37%、第3次産業が約58%と第3次産業が多くなっています。

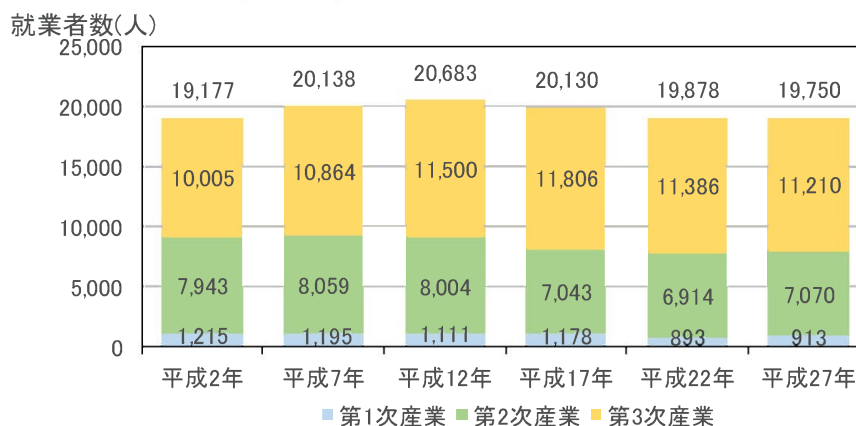
経年では、平成2年から平成17年にかけて第1次産業及び第2次産業就業者数が減少、第3次産業が増加していますが、平成17年以降は各産業ともほぼ横ばいとなっています。

表 2-9 区分別人口の推移と割合

	人口(人)				総数に占める割合(%)		
	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業
平成2年	19,177	1,215	7,943	10,005	6.3	41.4	52.2
平成7年	20,138	1,195	8,059	10,864	5.9	40.1	54.0
平成12年	20,683	1,111	8,004	11,500	5.4	38.8	55.8
平成17年	20,130	1,178	7,043	11,806	5.9	35.2	59.0
平成22年	19,878	893	6,914	11,386	4.7	36.0	59.3
平成27年	19,750	913	7,070	11,210	4.8	36.8	58.4

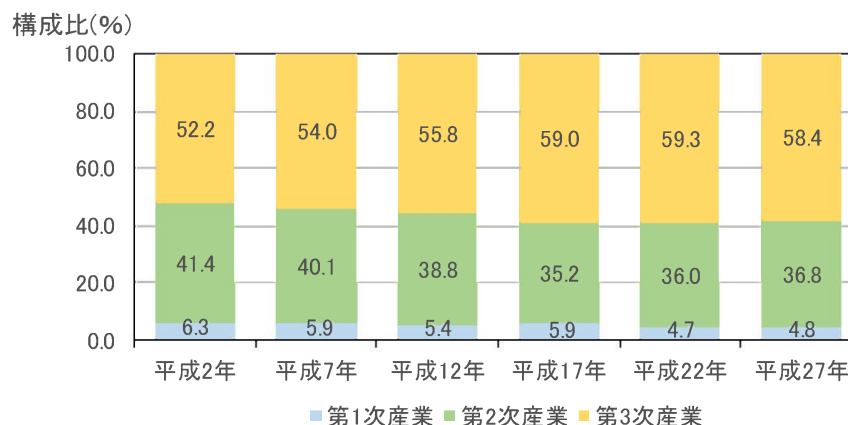
資料：国勢調査

※「総数」には「分類不能の産業」を含む。



資料：国勢調査

図 2-16 産業別就業者数の推移

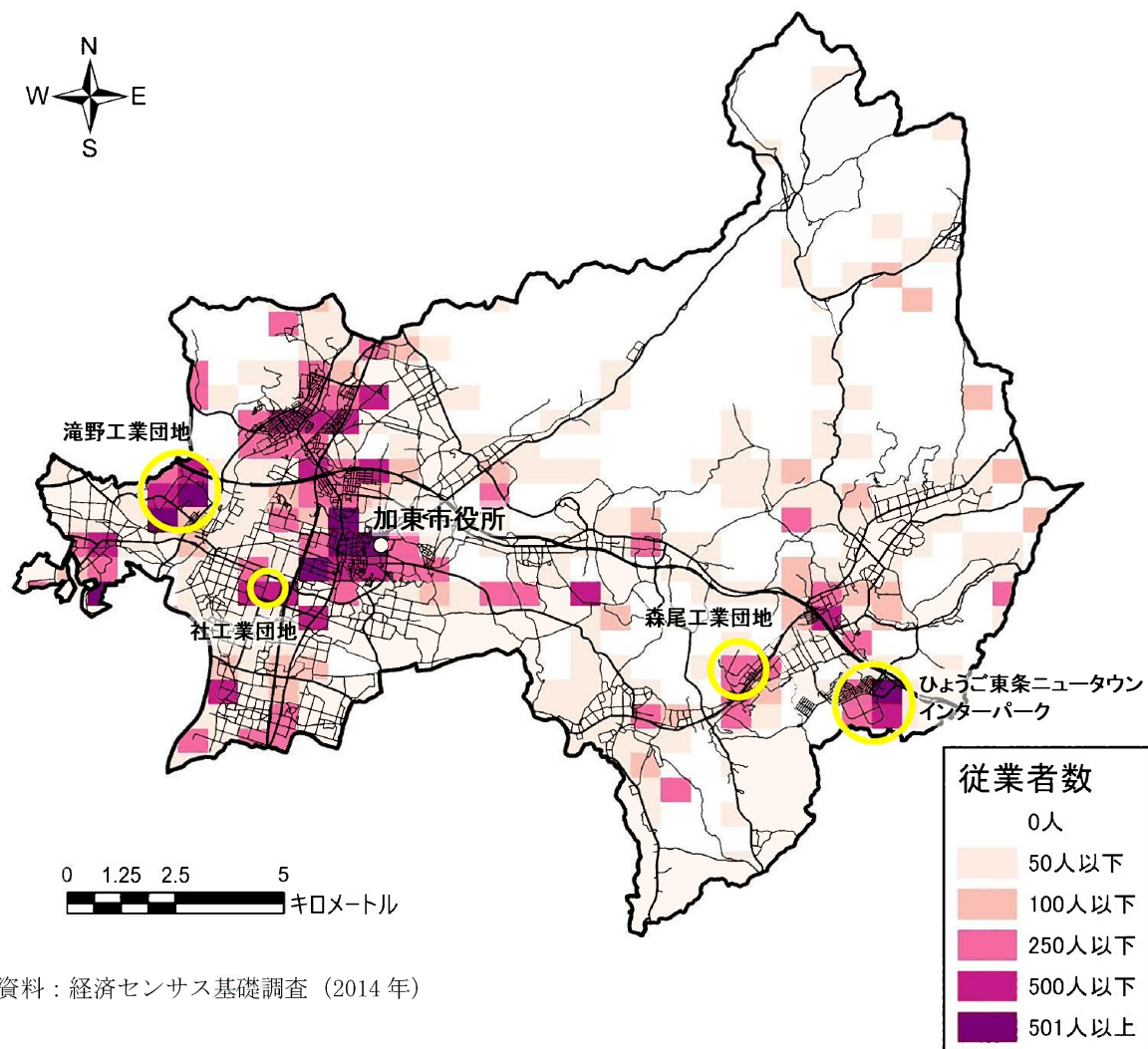


資料：国勢調査

図 2-17 産業別就業者割合の推移

2.4.2 従業員の分布

本市では市役所付近から滝野地域にかけて従業員の多い地区がまとまっています。
また、市西部や南東部の工業団地付近も従業員が多くなっています。



資料：経済センサス基礎調査（2014年）

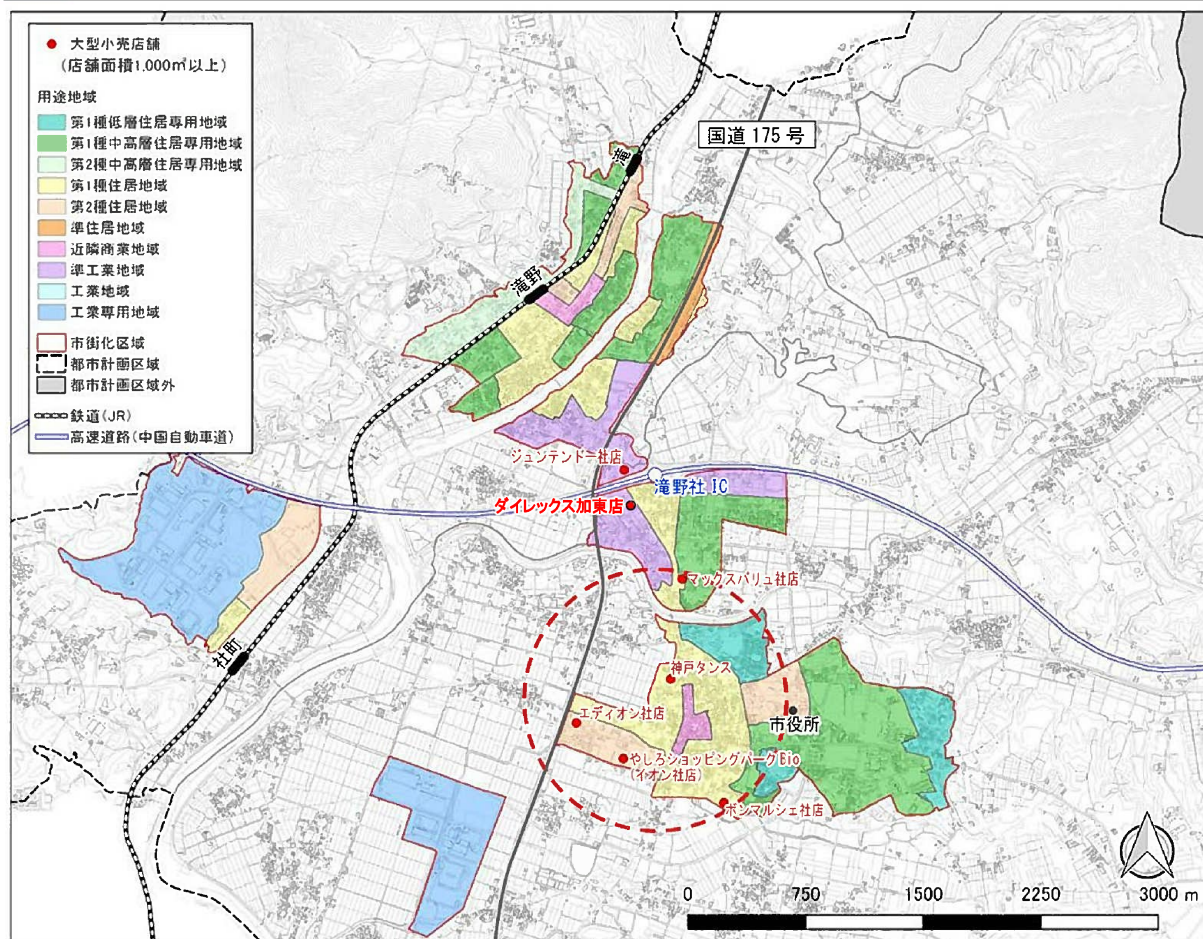
図 2-18 従業員の分布

2.4.3 大規模商業施設の立地

市内には店舗面積が1,000㎡以上の大規模小売店舗が8店舗立地しています。
マックスバリュ東条店以外はすべて市街化区域内に立地しており、うち5店舗が市役所西側（図中赤○のエリア）に集積しています。

表 2-10 市内の大規模小売店舗の概要

	名称	業態	開設日	店舗面積
1	やしろショッピングパーク Bio(イオン社店)	ショッピングセンター	1996(平成 8)年 5 月	22,270 ㎡
2	ボンマルシェ社店	食品スーパー	1977(昭和 52)年 11 月	2,598 ㎡
3	神戸タンス	専門店	1985(昭和 60)年 8 月	2,354 ㎡
4	エディオン社店	専門店	2013(平成 25)年 5 月	2,064 ㎡
5	ジュンテンドー社店	ホームセンター	2011(平成 23)年 7 月	2,045 ㎡
6	マックスバリュ社店	食品スーパー	1979(昭和 54)年 3 月	2,017 ㎡
7	マックスバリュ東条店	食品スーパー	2017(平成 29)年 7 月	1,518 ㎡
8	ダイレックス加東店	ディスカウントストア	2018(平成 30)年 11 月	1,559 ㎡



資料：東洋経済「全国大型小売店舗総覧」2017（平成 29）年

加東市都市計画マスタープラン 2019 年 3 月

平成 28 年度 大規模小売店舗立地法 法第 5 条第 1 項（新設）届出の概要【2018 年 3 月末】（経済産業省）

平成 30 年度 大規模小売店舗立地法 法第 5 条第 1 項（新設）届出の概要【2019 年 7 月末】（経済産業省）

図 2-19 市内の大規模小売店舗の立地状況